

天會、甲寅日地天歡喜會、乙卯日水天般若會、丁巳日火天諸天會、己未日羅刹天不動會、庚申日風天歡喜會、辛酉日吉祥天豐樂會、癸亥日毘沙門天成佛會、右八箇日宿曜經稱「八專」也。上件日冥衆悉上天下界御座々ガ故ニ、雖成佛事無聖衆之影響ト云々、仍大唐顯德四年丁巳歲ヨリ、三寶類皆以所忌來也ト云々、然共又彼岸ニ合時ハ、彼岸吉ニ依テ、八專凶ヲ捨テ可成善根也云々。

〔和漢名數節序〕八專 壬子爲始、癸亥爲終、凡十二日、但丑辰午戌非專日、故除之、和俗謂之間日、其餘只得八日、故名八專、凡八專者、干與支五行之運同而其氣專也、

〔假名曆略註〕どよう 漢字土用

土用とは土の氣始て事を主どるの日也、凡一歳の内、五行の氣互に循環して以て四時をわかつ、もつて歳序をなす也、春は木氣事を主り、夏は火氣事を主り、冬は水氣事を主どる、毎氣七十三日有奇を主どる也、唯土は中央に有て、四季に應じて各十八日有奇を主どる也、其始の事を主どる日を土用の入とす、都て土用の中は、造作、修造、柱立、礎、或土を動かし、井を掘、壁ぬり等、一切土を犯すに大に惡し、一説に土用の間日あれども信用するに足らず、

八せん 漢字八專

八專日は、元來兵家の撰日なり、凡軍勢を出し、陣所に出張し、軍營を造る等に忌む日なれば、俗家に於ては、無用の日也、但針灸に此日を忌のみ、間日を考用ゆべき也、

〔吾妻鏡二十六〕貞應二年六月十二日、伊豆國走湯山常行堂造營事、於柱者已立訖、來十九日可上棟之由、自寺家行事所言上、於二品亭、爲武藏目代二郎兵衛尉雅忠奉行、有其沙汰、而被問陰陽道之處、上棟事、土用中可有其憚之由、親職申之、七月十一日壬子、十二月二日庚子、可宜之由、請賢申之、而十日子者八專也、立堂舍之先例有之哉之由、行西依令申被尋下晴賢又申云、以前已立柱畢、其上八專日、或立佛閣或遂供養、其例繁多也、仍日時風記令治定被召置之云云、